

2020年1月
No.57

冬 号

公益財団法人

こしじ水と緑の会

Contents

- 酒一滴の力
専務理事 松井進一
- 第10期事業報告
- 第11期事業計画
- 活動報告「酒林づくり体験」
- 助成先紹介
・石澤佳代
・森のムツレ協会新潟
- 冬のプログラムのご案内



しぼりたての酒（提供／朝日酒造）

酒一滴の力

よき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年、公益財団法人こしじ水と緑の会の支援母体である朝日酒造株式会社は、創立100周年を迎えます。酒造りに適した自然環境の中、天保元（1830）年、「久保田屋」としてこの地に創業。大正9（1920）年5月16日、新潟県内でいち早く会社組織として、品質本位の姿勢を貫き地域に根ざした企業経営に徹しています。

朝日酒造の経営理念は『我が社の経営目的は、我が社の社会的存在価値を高めることである』と掲げています。その一つとして、こしじ水と緑の会へ物心両面から支援していただいています。

こしじ水と緑の会は平成13（2001）年6月5日（世界環境デー）に財団法人として設立、平成22（2010）年に公益財団法人に移行し現在に至っています。設立当初から「身近な自然環境を守り次世代につながる活動」を目的として、（1）助成事業（2）モニタリングサイト1000（3）河川環境の調査研究（4）水と緑の自然学校（5）情報

発信・普及啓発（6）里山の保全・活用の六つの公益事業を進めてきています。

柱である助成事業は、新潟県内の自然環境の保全と調査研究活動が対象で個人及び団体に対し選考委員会での審査・採択されたものに資金助成を行っています。これまで18年間で助成総数265件、助成総額は1億1,520万4,666円に達しています。

その原資は朝日酒造に加え、愛飲者様、酒販店様、納入業者様、OBや社員の皆様他、多くの皆様からご支援をいただいています。また、社員の皆様よりボランティアとして、自然学校や里山に親しむ会などの事業に協力いただき感謝しています。

朝日酒造創立100周年を契機に、社業の益々の発展と自然環境保護活動の機運が一層高まることを願っています。

新年も健康で酌み交わす一滴が、自然を守る力につながってほしく思います。

本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

専務理事 松井進一

(公財)こしじ水と緑の会 第10期事業報告

(2018年10月1日～
2019年9月30日)

皆さまのご支援により、第10期は次の活動を行うことが出来ました。ありがとうございます。

1. 助成事業

「第18回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」を実施しました。公募を行い、選考委員会で決定された10件に対して、計4,895,500円の資金助成を行いました(2019年3月23日に選考結果報告会開催)。また、2018年11月23日に第16回助成事業成果発表会を開催いたしました(参加34名)。

2. モニタリングサイト

1000

① 鳥類調査

2019年1月に越冬期の調査、5月に繁殖期の調査を粕谷理事が実施しました。

② 植物調査

2018年10、11月、2019年5、9月に毎月1回、新潟県自然観

察指導員の会の方々の協力を得て、植物の開花結実調査を実施しました。

3. 河川環境の調査研究

2019年9月7日に、「こしじ水と緑の会研究報告第1号」『洪水川の魚類相』をテキストに里山・里川の動物相の講義を、生物多様性保全ネットワーク新潟事務局の井上信夫氏にいただきました(参加16名)。

4. 水と緑の自然学校

環境教育に関する事業として、子どもから大人までを対象に、朝日城の森などを会場に開催しました。

① 酒林づくり体験

(2018/10/20) 参加12名

② 春のバードウォッチング

(2019/4/21) 参加14名

③ ツリークライミング体験

(2019/5/11) 参加27名

④ 草花遊び

(2019/6/23) 参加10名

⑤ 昆虫観察

(2019/8/31) 参加10名

5. 情報発信・普及啓発

① 「こしじ水と緑の会情報誌」第52号～55号まで発行しました。

② ホームページの情報更新に努めました。



「草花遊び」のひとつま

6. 里山の保全・活用

① 「春の里山に親しむ会」を2019年4月27日に緑の家、朝日城の森にて開催しました。粕谷理事・浅野理事による里山の話、自然観察、山菜天ぷらの試食などを行いました(参加28名)。

② 里山自然教室

里山の自然を座学で学ぶ講座を緑の家を会場に2回開催しました。

・雪とのつきあい方

(2019/2/2) 参加8名

講師 山下克也氏(雪氷防災研究センター)

・秋の草花

(2019/9/7) 参加19名

講師 櫻井幸枝氏(長岡市立科学博物館学芸員)

③ 緑の家周辺の自然ガイド

緑の家周辺の自然や朝日神社などのガイドを、NPO法人越の里山倶楽部の協力を得て2018年10、11月、2019年4月～9月に実施しました(参加延べ89名)。

④ 朝日城の森の草刈など、施設及び森林保全管理を事務局にて行いました。

⑤ 長岡市越路、小国地内の山林(約92万㎡)を寄附取得しました。



オオカマキリ(昆虫観察会にて)

第10期 決算

(2018年10月1日～2019年9月30日)

収入の部

(単位：円)

科 目	決算額
1 基本財産運用収入	1,531,933
2 会費収入	1,470,000
3 補助金等収入	10,184,043
4 雑収入	326,736
経常収益計	13,512,712

支出の部

(単位：円)

科 目	決算額
1 事業費支出	9,002,061
(公1)助成事業費支出	5,856,814
(公2)モニタリングサイト1000調査研究費支出	64,084
(公3)浜海川調査費支出	20,491
(公4)自然学校運営費支出	1,376,337
(公5)HP及び情報誌等発信費支出	715,052
(公6)里山活用モデル事業費支出	969,283
2 管理費支出	6,147,769
経常費用計	15,149,830
当期経常増減額	△ 1,637,118

財 産 目 録

(2019年9月30日現在)

【資産の部】

(単位：円)

1 流動資産	
普通預金	13,007,600
未収金	0
流動資産合計	13,007,600
2 固定資産	
(1)基本財産	
普通預金	8,884,408
定期預金	57,044,000
有価証券	63,150,000
土地	112,779,967
基本財産合計	241,858,375
(2)特定資産	
山林取得積立預金	17,707,731
特定資産合計	17,707,731
(3)その他固定資産	
その他固定資産合計	35,225,012
固定資産合計	294,791,118
資産合計	307,798,718

【負債の部】

(単位：円)

1 流動負債	
前受金	0
未払金	79,734
流動負債合計	79,734
負債合計	79,734
正味財産	307,718,984

(公財)こしじ水と緑の会 第11期事業計画

(2019年10月1日～
2020年9月30日)

各公益事業の着実な実施と円滑な事業運営に努めます。

1. 助成事業

「第19回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」を実施します。本助成事業は、公募を行い選考委員会で決定するもので、新潟県内での実践活動や調査研究活動を支援します。

「第17回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」成果発表会を2019年11月23日に公開で開催します(開催終了、参加40名)。

2. モニタリングサイト

1000

① 鳥類調査

越冬期および繁殖期の調査を継続して実施します。

② 植物調査

積雪期を除き、基本的に毎月1回、新潟県自然観察指導員の会の方々の協力を得ながら実施します。



葉っぱで工作(草花遊び)

3. 河川環境の調査研究

「研究報告第1号」(河海川の魚類相)をテキストに、里山・里川の生きものに関する講座を開催します。

4. 水と緑の自然学校

環境教育に関する事業として、子どもから大人までを対象に、朝日城の森などを会場に開催します。

① 酒林づくり体験

(2019/10/19実施、参加12名)

② スノーシューで里山散歩

(2020/2/29予定)

③ 春のバードウォッチング

(2020/4/下旬予定)

④ ツリークライミング体験

(2020/5/中旬予定)

⑤ 草花遊び

(2020/6/下旬予定)

⑥ 川遊びと生き物観察

(2020/8/上旬予定)

⑦ 昆虫観察会

(2020/8/下旬予定)



里山・里川の生きもの

5. 情報発信・普及啓発

① 当法人の活動などの情報を伝えるため、情報誌を年4回発行します。

② ホームページの情報更新に努めます。

6. 里山の保全・活用

① 里山の自然への理解を深める「春の里山に親しむ会」(20

20/4/下旬予定)を新たに寄附取得した山林にて開催します。

② 朝日城の森の草刈作業などの定期管理を実施します。また、寄附取得した山林の植物の現況調査などを行います。

③ 「緑の家」を会場に、里山の自然に対する知識を深める公開講座「里山自然教室」を開催します。

④ 緑の家周辺来訪者の希望者に対し、周辺地の自然などのガイドを実施します。



昆虫観察会

今期も変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

第11期 予算

(2019年10月1日～2020年9月30日)

収入の部

(単位：円)

科 目	予算額
1 基本財産運用収入	1,500,000
2 会費収入	1,480,000
3 補助金等収入	11,500,000
4 雑収入	350,000
経常収益計	14,830,000

支出の部

(単位：円)

科 目	予算額
1 事業費支出	11,220,000
(公1)助成事業費支出	5,870,000
(公2)モニタリングサイト1000調査研究費支出	270,000
(公3)浜海川調査費支出	50,000
(公4)自然学校運営費支出	1,650,000
(公5)HP及び情報誌等発信費支出	650,000
(公6)里山活用モデル事業費支出	2,730,000
2 管理費支出	6,641,640
経常費用計	17,861,640
当期経常増減額	△ 3,031,640

活動報告 「2019/10/19酒林づくり体験」

多くの杉葉を使う酒林づくり。しっかり作っていただけるよう事前にたくさんの杉葉を準備しました。



今年は例年になく皆様の手が早い！「早く・上手く」酒林ができました。講師をつとめていただいた朝日酒造製造部醸造1課の西脇久史さん、原康浩さんありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。
(事務局)

助成先紹介

活動報告 トゲソを絶滅から救いたい！

新潟県立新津高等学校理科部

顧問 石澤佳代

新津高等学校理科部では、5年前から1〜2ヶ月に1回、五泉市赤羽でトゲソの生息調査をおこなっています。トゲソというのは、五泉市の呼び方で、正式にはトミヨ属淡水型といい、雄が水草を用いて巣を作り、独特な求愛行動で雌を巢に誘い、産卵を促し、卵が孵化するまで巣を守り世話をするという珍しい魚です。

この魚は、以前この地区に多く生息していましたが、水路等の整備や区画整備により湧水が少なくなるとともに、生息に関わる環境が変化したため、新潟県の「レッドデータブックにいがた」(2001年)では絶滅危惧Ⅰ類に指定され、環境省でも「絶滅の恐れがある地域個体群」としてレッドリスト(2007年)に指定されています。

5年前はこの赤羽地区内の2カ所で生息が確認できていましたが、2015年の8月以降個体が確認できているのは1カ所となっていました。原因は、帰化植物のコカナダモが繁茂し、トゲソの生息する水路を覆うようになってしまったことや、

水路の整備がされたこと、湧水量が減少したことが考えられています。さらに、2018年では、その1カ所の水路周辺でも樹木が伐採され、

2019年の春には、水路の脇の空き地で太陽光発電のための整備が行われました。その際にたまった地下水をこの水路へ排出したために、水路内に泥がたまってしまいトゲソの生息に影響がでるのではないかと心配しました。特に樹木の伐採により、日照条件がよくなることで水草の生育状況が変化したり、水路の底質が泥に変化したことにより、土壌中に生息する生物に影響したりするのではないかと考えました。普段、個体数調査は10m区間の両端に網を立てて仕切り、その中で2人がたも網で10分間捕獲をした個体数を記録しているのですが、4月と6月の段階ではトゲソをまったく確認できず、部員たちは、ついに絶滅してしまったかと思いました。しかし、7月には8個体、8月には13個体と昨年よりも少し多いくらいの個体数が確認でき、加えて2cm以下の今年生まれた個体も確認できました。また、水草やドジョウなどの個体数なども昨年と大きく変わっていませんでした。しかし、この結果は一次的なものかもしれない、決してこれまでより環境がよ

くなったわけではありません。

以前は、部員数が少なく、調査に時間がかかっていましたが、今年是新入部員として1年生が10人も入りました。また、五泉市の土堀地区と猿和田地区での保全、調査をされているNPO法人五泉トゲソの会の方々にも現状を報告し、応援をしていただきました。これまでは、細々と観察をおこなってきましたが、今後とも継続した調査の必要性を感じました。これらの結果は、周辺地域住民のみなさんを始め、五泉市などへも報告し、数少ない生息地がこれ以上減らないように対策を考えていきたいと思っています。



助成先紹介

森のムツレ協会新潟

会長 三条公子

「こんにちは。コリコック！」森のムツレ教室は、このあいさつで始まります。森のムツレ教室は、スウェーデン野外生活推進協会の事務局長だったヨスタ・フロム氏が開発した子ども達を対象にした自然環境教育プログラムです。1957年から始まり、スウェーデンではこれまでに200万人以上の子ども達が参加しています。現在は日本だけでなくフィンランド、ドイツ、ラトビア、ロシア、英国、韓国でも活動が行われています。

どんな天候でも野外に出かけ、五感を使った遊びを通してエコロジ理解の基盤を築き、自然感覚を培いながら、「自然に出かけることは楽しい！」と知ってもらうことを目的としています。乳幼児期から小学生まで発達段階に応じたプログラムがあり、継続した環境教育を受けられます。

森のムツレ教室の最大の特徴は、ムツレという森の妖精が「自然を大切にしよう」というメッセージを持って登場することです。ムツレの語源は、スウェーデン語で土壌を意味する「Mullen」です。土は地球上

のすべての命の根源であり、人間もまた土とつながっているのだということ伝えてほしいという願いがムツレの名前には込められています。ムツレは子どもと自然の橋渡しの存在で、時にはリーダー（講師）による手形やペープサートなどで登場し、子ども達と遊び、歌を歌い、自然について語ってくれます。現実とファンタジーの世界を自由に行き来できる発達段階にある5〜6歳児にとって、ムツレはスリルがあり想像力をかき立ててくれる存在です。

私達「森のムツレ協会新潟」は2000年に日本野外生活推進協会（森のムツレ協会）の新潟県支部として設立され、現在は主に新潟県の保育園、認定こども園を中心に15団体が加盟し、森のムツレ教室のリーダー資格をもつ会員が約250名所属しています。

当初、自然環境教育に関心の高かった保育者が、ムツレ教室の理論と実践を学ぶスウェーデンでの「北欧の環境保育研修」に参加する機会がありました。そして、北欧での環境保全の取り組み方や自然との融合は日本においても参考となる点が多いと感じ、特にその「理念」に大いに感動し、持続可能な社会づくりの担い手を育てる幼児教育の場で実践に

取り入れたいと強く思ったのです。

「森のムツレ協会 理念」

- ・ 幼児期から自然に親しむ
- ・ 自然体験を通して自然を観る力を培う
- ・ エコロジー（自然界での共生）を五感を使って理解する
- ・ 自然環境について考え、自然を守る行動をする
- ・ 野外で生活する知恵を身につける

今では毎年、ムツレ教室をはじめとする各プログラムのリーダー養成講座に加え、一般の方も自由に参加できる自然観察教室を開催しながら、加盟団体においては日々の活動の中に、各園の特徴を生かしながらそれらのプログラムを取り入れています。今回、（公財）こしじ水と緑の会様より助成いただいたことにより、各講座が充実したものとなり、加盟団体での活動も活性化しましたことに、改めて感謝申し上げます。

これからも子ども達を自然の中へ案内し、仲間意識を育て、好奇心を満たし、冒険遊びを繰り広げ、子ども達の生きる力を育んでまいります。

書籍のご紹介

『身近な自然と遊んで育つ保育実践』（わかば社）

ご家庭での自然遊びのヒントも詰まっています。ぜひご覧になってください。



牛乳パックで作ったお散歩バッグで探検開始



ムツレさん登場



自然の道クイズ

雪を楽しみましょう！ 冬のプログラムのご案内

里山自然教室「雪とのつきあい方」

人に恵みだけでなく災害ももたらす雪。この講座は座学を中心に雪に関する知識を深めながら、防災に関する最新の研究についてもご紹介します。

■ 日時 2月1日(土) 9:30~11:00 / 集合: 緑の家

■ 講師 山下克也氏(雪氷防災研究センター特別研究員)

■ 対象・募集

自然に興味のある方(中学生以上) 20名(先着順)

■ 参加費 ¥300(保険料など) / こしじ水と緑の会会員は¥200

■ お申込

事務局まで参加される方のお名前、連絡先の住所、電話番号をお知らせ下さい。後日、詳しいご案内をお送りいたします。

■ 申込〆切 1月29日(水)



スノーシューで里山散歩

スノーシューを履いて身近な里山を散歩します。冬の里山には、動物の足跡など普段目にすることの出来ない不思議がいっぱいです。スノーシューはレンタルをご用意しております。スノーシューを履いて、雪の世界を楽しみましょう。

■ 日時 2月29日(土) 9:30~11:30 / 集合: 巴ヶ丘自然公園

■ 対象・募集

小学生以上のお子様とご家族 20名(先着順)

■ 日程(予定)

9:30 集合~スノーシューのはき方説明・貸出し

10:00 里山散歩に出発(多少アップダウンのあるところを歩きます)

11:30 終了~解散

■ 参加費 ¥300(保険料など) / こしじ水と緑の会会員は¥200

■ お申込

事務局まで参加される方のお名前、お子様の年齢、連絡先の住所、電話番号をお知らせ下さい。後日、詳しいご案内をお送りいたします。

■ 申込〆切 2月26日(水)



編集後記

新年あけましておめでとうございます。
2020年、東京オリンピックが開催される記念すべき年です。皆様にとって本年が素晴らしい一年になりますように。(拓)

会員動向 (2019年11月30日現在)

会員511(個人444、法人67)

引き続き、ご支援のほど宜しくお願い致します。

ご寄附ありがとうございました

(2019年10月1日~11月30日、敬称略・順不同)

吉原印刷(株)、中西克人、柳和久、小林純子、
(株)グロー、遠藤泰弘、平澤清子、金内正子、
中静京子、反町和夫、野地英子、坂田俊行、
細田真司、(株)陸送北越、牧野忠昌、浅井秀雄、
市井昌子、安達政晴、永井真紗子、永井功夫、
山崎知則、山崎文雄、林文、荻原彩子、山際岩雄、
越後門出和紙、大塩正二、齊藤允昭、平澤修、
中静透、渡辺志津江、松井進一

公益財団法人

こしじ水と緑の会



本誌は再生紙を使用しています
植物油インキを使用しています

〒949-5412 新潟県長岡市朝日595番地5 電話・FAX 0258-92-5238

HP <http://blog.koshiji.org> E-mail info@koshiji.org